

審査の結果の要旨

氏名 林 姫 辰

本論文は、韓国の高校生を対象とし、自らのストレスに気づき、うまく対処できることを意図した健康教育プログラムの開発を目的とした研究について書かれたものである。(第I章)

まず、先行研究を検討し、上記の目的にかなう学校教育で活用しうるプログラムの必要性が高いにもかかわらず、科学的根拠に裏付けられた教育方法や教材が乏しいことを示した。(第II章) この目的にかなうストレスに対する健康教育プログラム(以下、「プログラム」)を開発するために、対象者のストレス状態の把握、それらを測定する方法の開発、健康教育の実施・評価まで行ったのが本研究の大きな特色である。

まず、「プログラム」やその評価法の開発を目指すこととし、韓国の複数の高等学校の生徒を対象として自由記述によるデータを収集し、それらに主成分分析を行い「認知的ストレス尺度(98項目)」、「ストレス対処法尺度(41項目)」、「ストレス反応尺度(65項目)」を構成した。そして、これらを実用性の観点から単純化し、それぞれ14尺度、7尺度、3尺度に統合した。(第III章)

次に上記3つの尺度の交差妥当性を検討するため、上記とは異なる対象者について調査を実施し、仮説的モデルの適合性を共分散構造分析を用いて検討し、尺度の交差妥当性が高いことを明らかにした。さらに、対象者に1ヵ月間隔で2回調査し、信頼性の確認も行っている。(第IV章) 以上を「プログラム」の評価法とした。

健康教育プログラムの開発に先立ち、認知的ストレス、ストレス対処法、ストレス反応における性、学校、学年による差を検討し、高校生が感ずるストレスの内容や学年、性による違いが明らかになり、介入の時期としては第2学年が適当であるとの示唆が得られた。(第V章)

また、効果的「プログラム」作成の基礎的検討として「認知的ストレス」、「ストレス対処法」、「ストレス反応」の3者がかかると想定したストレス過程の仮説的因果モデルを検討し、因果関係の安定さを確かめた。(第VI章)

以上を元に、ストレスの自己評価、ストレスの過程、ストレスの対処法からなる3時間で完結する高校生向け「プログラム」を開発し、2校の女子高校第2学年を対象とし、介入群と2種類の対照群を置いた「プログラム」の有効性の検討を行った。(第VII章) この結果、本「プログラム」が生徒のストレス状態の改善およびストレス反応の予防に有効であるという結論を得た。(第VIII章)

本論文は、韓国の現代社会における青少年の健康状況を広く見据えた上で研究課題を設定し、実際に多量のデータを収集した上で、統計学的手法を駆使して尺度を作り調査票と評価法を開発し、その上でストレスに関する健康教育のアクションリサーチを実施した系統的な研究である。試みた「プログラム」の実施規模は必ずしも大きくはないが、本人自身が開発した点は評価に値する。以上より、本研究は当該領域の研究の進展に寄与するところ大であり、博士(教育学)の学位を授与するに相応しいと判断された。